

水 土 里 レ ポ ー ト

投稿月日	令和7年10月1日
タイトル	「岩木川水の旅」～鶴田町立鶴田小学校～
水土里レポーター名	水土里ネット板柳東部 事務局長 田中昌吾

令和7年6月10日（火）鶴田町立鶴田小学校3年生78名、協力団体として青森県土地改良事業団体連合会、廻堰大溜池土地改良区、砂沢溜池土地改良区から協力のもと、総勢95名で「岩木川水の旅」を行いました。

行程は『津軽ダム→白神山地ビジターセンター→岩木川統合頭首工』を巡る旅となります。最初の目的地に着くまでの間、バスの中で子どもたちは水の旅に関するクイズをしたり、水循環システムに関するDVDを見たりして過ごしていました。

『津軽ダム』の見学では、ダム職員の方の説明を聞きながらメモを取り、質問をしてダムが作られた目的や役割について勉強しました。ダムの目的や役割として、洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水の補給、水道、工業用水道、発電など多くの働きを持っていることを学びました。津軽ダムは目屋ダムの約60m下流に建設されたコンクリートダムで、既存のダムとの距離が近いのは、再開発ダムとしては全国的にも珍しいとのことでした。

ダム上部（天端）から取水塔へ移動し説明を受けた後、ダム上部から下流側の施設の説明を受け、全長約900mある監査廊内に入りました。階段を下りながら進み、コンジットゲート操作室に到着。コンジットゲートを間近で見て、子どもたちも興味津々でした。最後に外へ出ると、改めてダム堤体の高さに皆驚いていました。

『白神山地ビジターセンター』では、神秘の森・白神山地の四季を紹介し、次世代へ継承していく大切さを伝える映像を視聴しました。

『岩木川統合頭首工』では、管理している岩木川土地改良区の方から説明を受けました。

ダムから流れてくる岩木川の水をゴム堰でせき止めて取水し、用水路を通じて身近な田畑に供給していること、また魚道と呼ばれる通り道があり、そこを通過して魚が下流から上流へと上がっていくことなどを教えてもらいました。

今回の「岩木川水の旅」を通して、子どもたちはダムからの水がさまざまな工夫を経て、自分たちの身近な田畑に流れてきていることを学ぶことができたと思います。



津軽ダムパーク内にて説明



ダム下流側を見ながら施設の説明



コンジットゲートについての説明



ダムから出て白神が故郷橋パークへ移動



岩木川統合頭首工（魚道の見学・説明）



岩木川統合頭首工（ゴム堰の見学・説明）